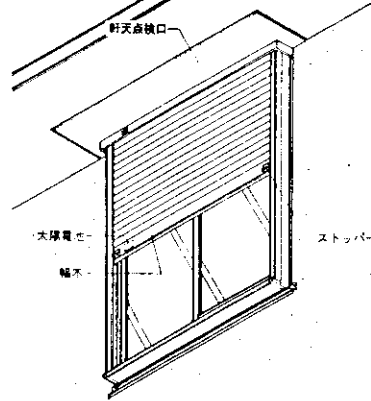


●お願い...この説明書は施工終了後、電気工事店様にお渡しください。

■施工上のご注意

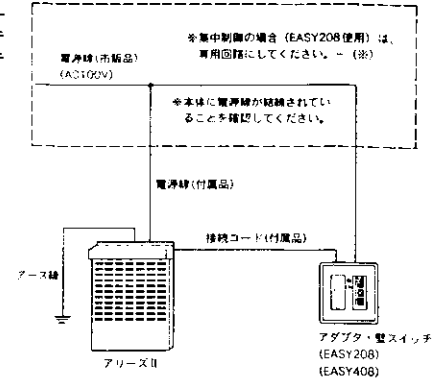
- 本製品は、木造用のためALC鉄骨造、RC造には取り付けられません。
- 本製品は、非常開放装置付き(テラスタイプ)と無し(窓タイプ)の2種類があります。図のハンドル取付け以外は同じ工程で取り付けてください。
- 本製品は、外壁仕上げ後では取り付けられません。必ず構造体に先付けしてください。
- スラット本体を持ち運ぶ場合、ボックスアングルを持ち上げますと重むおそれがありますので、絶対に持たないでください。
- アリーズボックスを軒天の内部に取り付ける場合、必ず軒天部に点検口を設けてください。(右図)又、太陽電池が隠れないよう納まりを配慮し、自動停止位置を調整してください。
- スラット本体を取付ける前に、サッシ枠の水平・垂直が出ているか確認してください。レベルやサッシ枠の取付けに不備がありますと、アリーズの作動不良の原因となりますので必ず確認してください。
- 取付け後、枠と駆体の取り合わせ部には、防水テープ(別売り)を張ってください。
- モルタル施工の際には、下枠及びガイドレールに必ず養生をして、モルタルが入らないようにしてください。
- 壁仕上げをする場合、ガイドレール及び点検口は絶対に塗り込まないでください。(塗り込みますと、モーターの点検や調整ができなくなります。)又、下枠も同様に塗り込まないでください。
- 清掃の際、モルタル剝離剤等はアルミ表面を痛めますので使用しないでください。
- ボックス屋根部の養生シートは、モルタル施工後にはがしてください。
- 施工完了後、スラット下部に付いている「トラブル防止チェックシート」で必ず確認してください。
- サッシ枠の組立て・取付けにつきましては、別途サッシ枠梱包に同梱の説明書をご覧ください。

【軒天納まり】



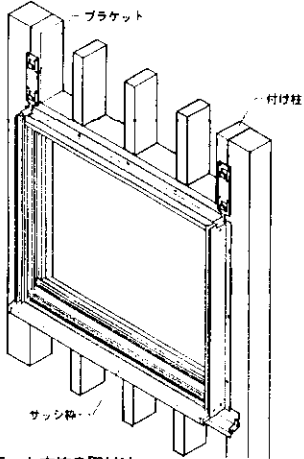
■配線図

※専用回路とは、1つの分岐回路にブロッキングフィルターを設け、その2次側にトステム電動商品を接続するトステム専用の回路です。



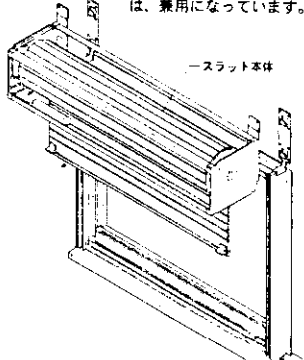
■取付け順序

1) ブラケットの取付け



2) スラット本体の取付け

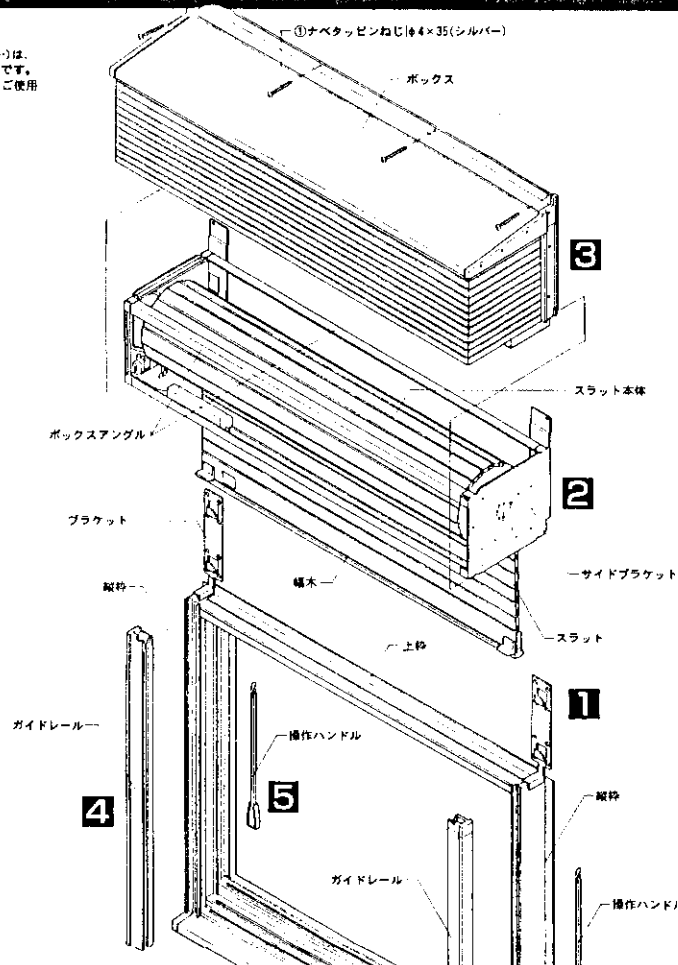
- ※1) 本体取付けの際、モーター側下部の調整リングに物を当てたり、引いたりしないでください。
- ※2) スラット本体のねじ止めは、ボックスをはめ込んでから行います。ボックスと本体の固定ねじは、兼用になっています。



■取付け詳細

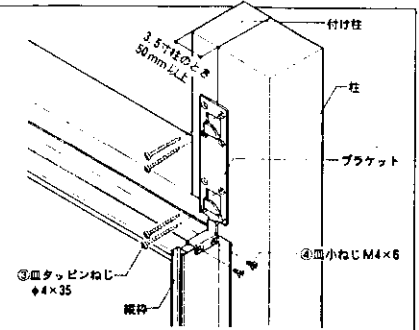
■構成図

※図中のねじ番号(①②...)は、ねじ台紙の番号と同じです。ねじ台紙を参照の上、ご使用ください。



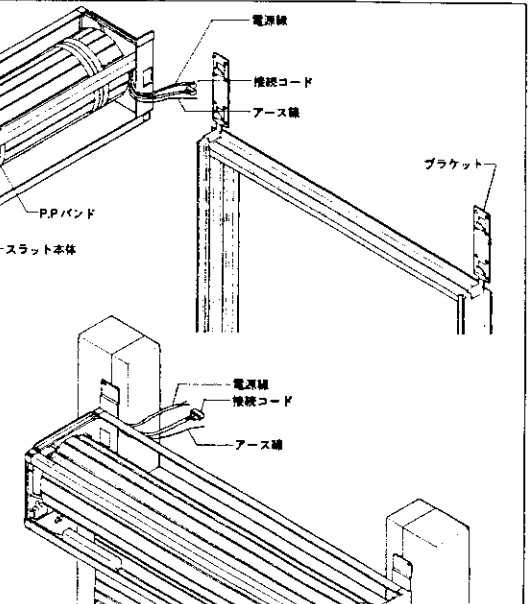
1) ブラケットの取付け

- ※付け柱が施工されているか確認してください。施工されていない場合は、「サッシ枠取付け説明書」に従って付け柱を施工してください。
- ① ブラケットを縦枠にかぶせ縦枠と固定します。(ブラケットは左右兼用です。)
- ② ブラケットが垂直となるように、柱及び付け柱にちどりにねじ止めします。(ねじを4本使用)
- ※ブラケットが確実に固定できるように、注意して施工してください。



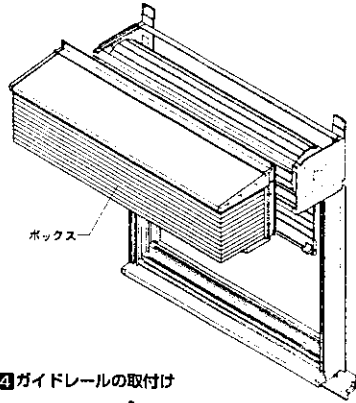
2) スラット本体の取付け

- ※P.Pバンドは取付けが終わるまで切らないでください。P.Pバンドを切りスラットを巻きほくと、アリーズの停止位置が変わり故障の原因になります。
- ① スラット本体左右のサイドブラケットを、駆体に固定してあるブラケットに引っ掛けます。4箇所とも完全に掛かっているか確認してください。
- ② 電源線・接続コード・アース線を束ねてあるバンドを切り、室内側

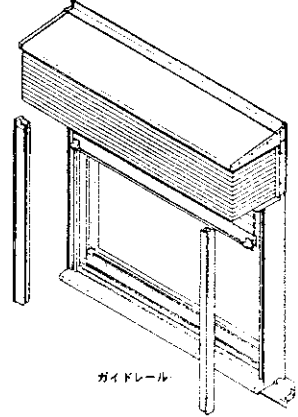


※スラット本体の両端のスチロールがないことを確認してください。

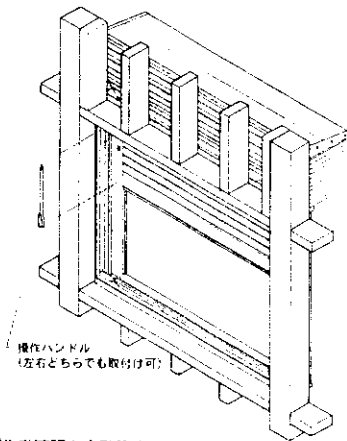
※非常開放装置付きの場合、スラット本体の左右下部の固定パットがないことを確認してください。



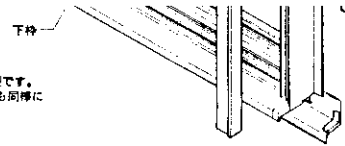
4 ガイドレールの取付け



5 非常開放装置操作ハンドルの取付け (非常開放装置付きの場合)



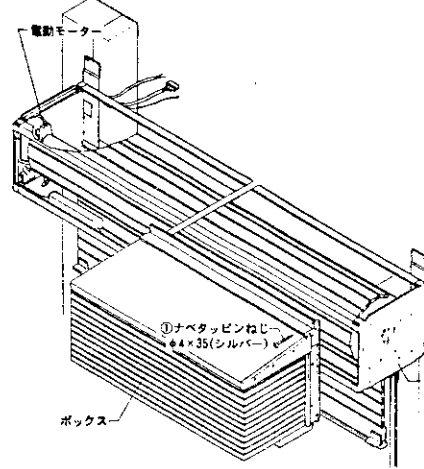
- 6 動作確認と自動停止位置の確認
- 7 電気工事の依頼(裏面参照)



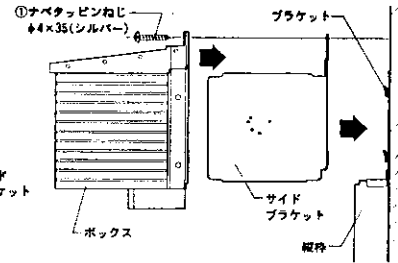
※上図はボックスA型です。B型、C型、UD型も同様に施工してください。

3 ボックスの取付け

- 1 左右のサイドブラケットにボックスの両側面を同時にスライドさせて取り付けます。※上からのせる気持でかぶせます。
- 2 ボックスの屋根フィンをタッピンねじで固定します。

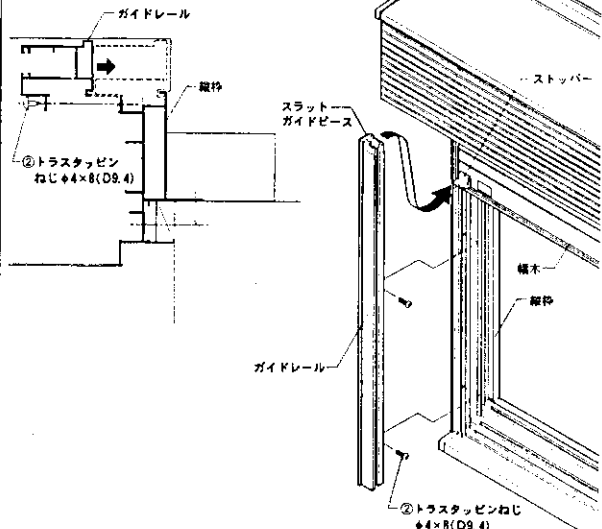


※軒や足場などが邪魔でボックスがスライドできない場合は(右図)、スラット本体にあらかじめボックスをスライドさせてからブラケットへ引っ掛けて固定してください。(下図) ※スチロール及びP.Pバンド・固定パットは、あらかじめ取り外してください。



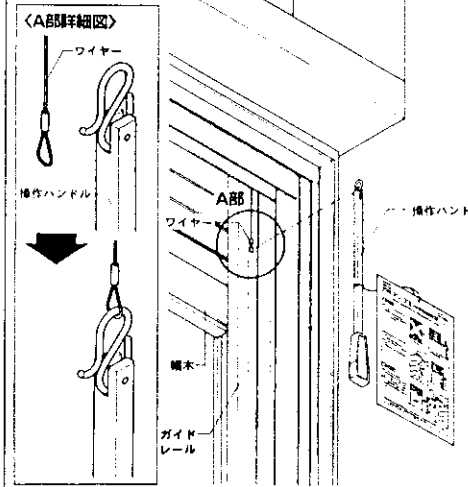
4 ガイドレールの取付け

ガイドレール上端(スラットガイドピース側)の溝に幅木を入れて、縦枠に確実にはめ込み、タッピンねじで固定します。

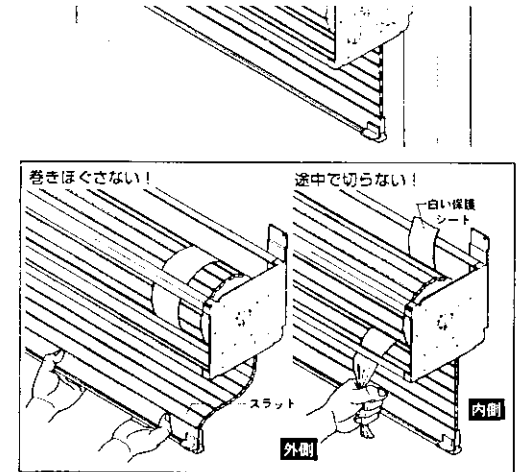


5 非常開放装置操作ハンドルの取付け(非常開放装置付きの場合)

- 1 ガイドレール上方に垂れ下がっているワイヤーに操作ハンドルを取り付けます。※取付けの際、ワイヤーを引いてしまうと、非常開放装置が作動しますので注意してください。※操作ハンドルは、1本付いています。開口の左右どちらかに取り付けてください。(ワイヤーはアリーズの左右に下がっています。)

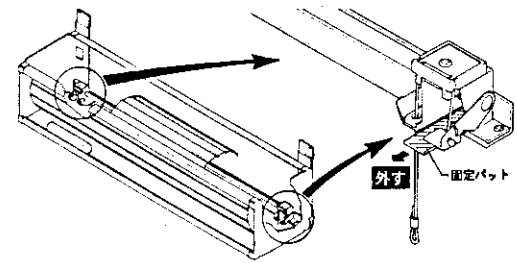


届かない場合、交換用コードと取り換えてください。取換え方法は裏面をご覧ください。

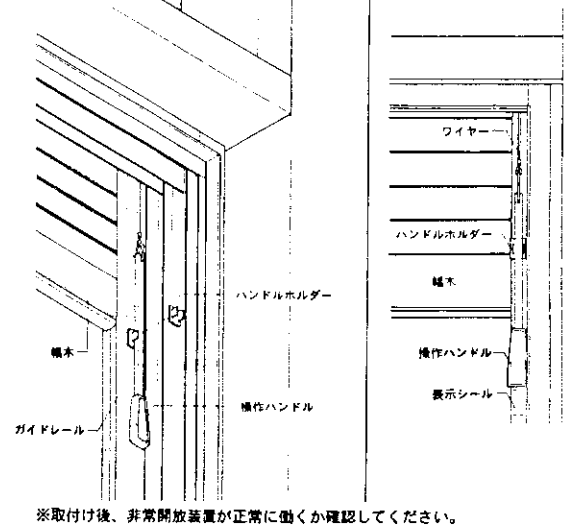


- 3 P.Pバンドを切ります。スラットは、下げたままにしておきます。※スラットは無理に引いたり、はぐしたりしないでください。上下の停止位置がくるります。※白い保護シートは途中で切らないでください。
- 4 動作確認の時に、スイッチでスラットを降ろしてから、取り除いてください。途中で切ると室外側に出たり取り外しにくくなります。
- 5 スラット両端のスチロールを取り外します。

- 6 非常開放装置付きの場合、左右の固定パットを取り外します。※本体をブラケットに取り付けた後、固定パットを、左右とも必ず外してください。



- 2 ハンドルホルダーの裏紙面をはがし、ガイドレールに取り付けます。※取り付ける際、ガイドレールの油や汚れをよくふき取ってください。
- 3 ハンドル取付け後、ハンドルの真下に同梱の表示シールを張ります。



※取付け後、非常開放装置が正常に動くか確認してください。※操作方法及び復帰方法は、操作ハンドルに付いているタグ又は、お施主様用取扱説明書(ボックス点検口下面添付)をご覧ください。

**③動作確認と自動停止位置の確認**

※取付け完了後、下記の要領で必ず全てのアリーズの動作確認をしてください。  
(試運転は、検査用コードセットと壁スイッチで行います。)

**■アリーズ動作確認上のご注意**

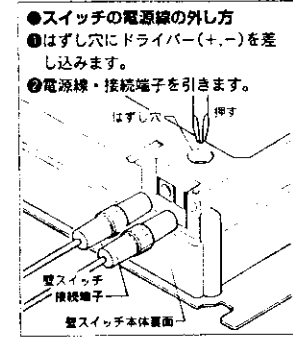
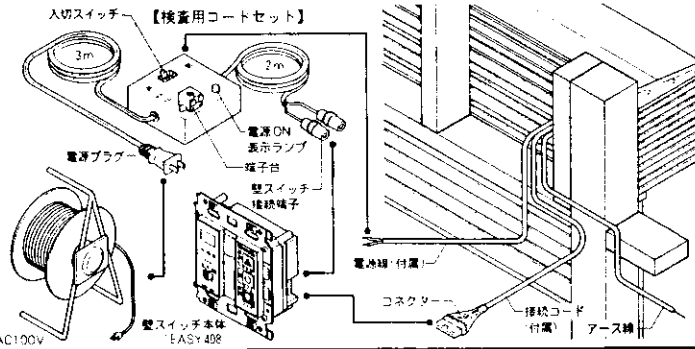
- アリーズのブラットに無理な力を加えると、故障の原因になります。絶対に持ち上げたり、引いたりしないでください。
  - AC100V以外の電源は使用しないでください。
  - 電源線・接続コード・アース線は、ブラットと接触しないように止めてありますので、強く引かないでください。
  - 電源線・接続コード・アース線は、室内側に引き込んであるか確認してください。
- ※上限又は、下限位置にくると、アリーズは自動的に止まります。  
※5分以上の連続閉を繰り返しますと、モーターに組み込まれている保護装置が作動し、アリーズの動きが止まることがあります。これは、故障ではありません。10～15分程度休ませますと、再び開閉できます。
- ※輸送中のキズ防止のため、ブラットに保護シートが差し込んであります。アリーズをいったん下げてシートを取り除いてください。

**■アリーズII試運転用部品(有償品)**

- 検査用コードセット(EASY521)
- 壁スイッチ(EASY408)、又はアダプタ(EASY208)

**■検査用コードセットの接続方法**

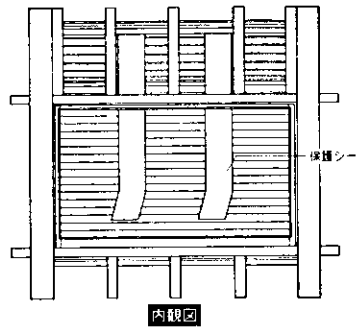
- ※検査用コードの入切スイッチを「切」にして結線してください。
- ①本体から出ている接続コード(付属)のコネクターを壁スイッチに差し込みます。
  - ②アリーズ本体の電源線(付属)をコードセットの端子台へ結線します。
  - ③壁スイッチ接続端子を壁スイッチの端子台へ押し込んで接続します。
  - ④プラグをコンセントに差し込みます。
  - ⑤最後に入切スイッチを「入」にします。  
※電源ON表示ランプが点灯します。
- 【ご注意】**  
アリーズ本体及び壁スイッチを接続する前に、プラグをドラムのコンセントに差し込まないでください。



**1 開閉の確認**

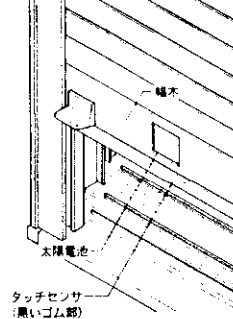
右記手順でアリーズが壁スイッチの操作通りスムーズに開閉するか確認します。  
**【ご注意】**  
アリーズの施工中に上・下限リングを引くと、引いた位置で上・下限停止位置が設定されてしまい、アリーズが動かなくなります。この時は自動停止位置の確認を参照し、上・下限停止位置を調整してください。

- ①壁スイッチの開スイッチ $\square$ を押すと、アリーズは自動停止位置(下限)で止まります。(下限位置を確認してください。)  
※この時にブラットの保護シートを全て取り除いてください。
- ②壁スイッチの開スイッチ $\blacktriangle$ を押すと、アリーズは自動停止位置(上限)で止まります。(上限位置を確認してください。)
- ③再度壁スイッチの開スイッチ $\square$ で下降させ、途中で停止スイッチ $\bigcirc$ を押してアリーズを停止させます。  
※自動停止位置は下記を参照し、ずれている場合は調整してください。

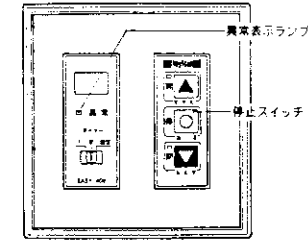


**2 SRS(セーフティリターンセンサー)の動作確認**

- ①端木のタッチセンサーを下面より手で押し、壁スイッチのブザーが鳴り、異常表示ランプが点滅します。
- ②壁スイッチの停止スイッチ $\bigcirc$ を押します。異常表示ランプの点滅とブザー音が停止します。(停止スイッチを押さなくてもブザー音は約10秒で停止します。)  
※下降中に端木のタッチセンサーを押し、壁スイッチのブザーが鳴り、異常表示ランプが点滅と同時にブラットが巻き上がります。



**【SRS仕様スイッチ】**



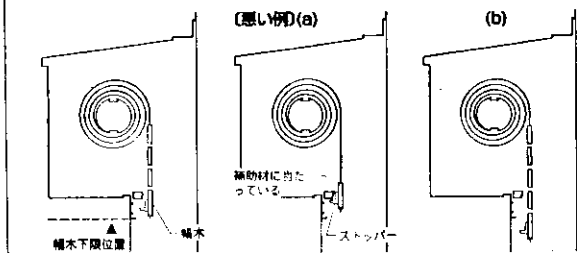
**3 自動停止位置の確認**

出荷の際、ブラットの停止位置は、正しく設定していますが、取付け時の建付け具合などによって、自動停止位置がズレることがあります。ズレがある場合は、右記の最適停止位置を確認した後、下記の要領で調整してください。又、誤って調整リングを引いてしまった場合も、同じ要領で調整してください。

- ※室内と屋外どちらからでも調整できるよう、2個所に調整リングがあります。  
※屋外調整リングは、固定しているツメから外して調整してください。  
※室内調整リングは、サッシ上枠とブラットの間にあります。  
※自動停止位置は、調整リングをいったん引いて、再び放すと設定されます。
- ＜上限停止位置の設定＞…アリーズを上げた時の自動停止位置**
- 上限位置を上げる場合(巻き上げが足りない)悪い例(b)の場合
  - 上限用リングを引きながら開スイッチ $\blacktriangle$ を押します。
  - 設定したい位置でリングを放します。
- ※リングを放すか、停止スイッチ $\bigcirc$ を押さないとモーターは回転し続けます。巻き過ぎないように注意してください。
- 上限位置を下げる場合(巻き上げ過ぎている)悪い例(a)の場合
  - 設定したい位置でアリーズを停止させます。
  - 上限用リングをいったん引いて、再び放してください。
- ＜下限停止位置の設定＞…アリーズを下げた時の自動停止位置**
- 下限位置を上げる場合(ベルトがたるみ過ぎている)悪い例(c)の場合
  - 設定したい位置でアリーズを停止させます。
  - 下限用リングをいったん引いて、再び放してください。
  - 下限位置を下げる場合(通気孔がふさがりすぎ)悪い例(d)の場合
- 施工直後、アリーズが開いたまま全く動作しない場合
- 下限用リングを引きながら、開スイッチ $\square$ を押します。
  - 設定したい位置でリングを放します。
- ※リングを放すか、停止スイッチ $\bigcirc$ を押さないとモーターは回転し続けます。下げ過ぎないように注意してください。

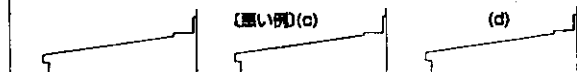
**＜上限の最適停止位置＞**

●端木が点検口の収納部で停止した状態になります。  
※(a)図の場合は、ストッパーが点検口補助材に接触します。このためモーターに無理がかかり、故障の原因になります。又、太陽電池が点検口のスリット位置から外れ、充電が困難になります。  
※(b)図の場合は、開口部の視界を狭めます。

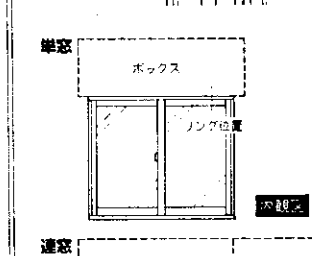
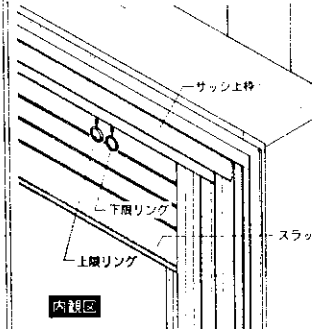


**＜下限の最適停止位置＞**

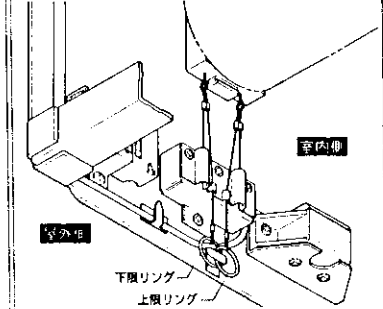
●アリーズを下げた場合、通気孔がすべて閉じた状態になります。  
※下げ過ぎるとボックス内でブラットとベルトがたるみ、ベルト切れの原因になります。(c)図  
※下げが足りないとアリーズの通気孔が完全に閉じません。(d)図



**■室内側調整リング位置**



**■屋外側調整リング位置**



**【ご注意】**  
※室内より下限の調整をする時は、ボックスの中が見えないので特に注意してください。  
※停止位置を超えて、ブラットの巻き込みや逆巻きにならないように注意してください。ブラットの巻き込みや逆巻きは故障の原因となります。

